

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2007年08月10日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2007000005"/> 整理番号 <input type="text" value="11133"/> 担当者 <input type="text" value="谷中 秀臣"/>
表 題	ポリ(シリアリーレンシロキサン)誘導体及びその共重合体並びにシリコーンゴム
技術分野	<input type="text" value="有機材料"/>
適用製品	シリコーンゴム関連製品
目 的	無機系主鎖を有するポリシロキサン誘導体の一つであるポリ(テトラメチルシルアリーレンシロキサン)誘導体において、溶解性、接着性、加工性などの向上を目的としてアルコール性水酸基を導入した新規ポリ(テトラメチルシルアリーレンシロキサン)誘導体の提供。
技術概要	ポリシロキサン誘導体を架橋することにより得られるシリコーンゴムは、医療分野をはじめとするさまざまな分野で実用化されている。しかしながら、既存のシリコーンゴムは、逆に柔軟すぎるためにハンドリングが困難である、あるいは接着性に乏しいなどの欠点も併せ持つ。一方で、ポリ(ジメチルシロキサン-テトラメチル-p-シルフェニレンシロキサン)共重合体は、汎用のポリジメチルシロキサンよりも高い耐熱性を有するため、耐熱性エラストマー原料として用いられているが、柔軟性や接着性についてはポリジメチルシロキサンと大きな差異はない。そこで、ポリ(ジメチルシロキサン-テトラメチル-p-シルフェニレンシロキサン)共重合体のフェニレン部位をかさ高い縮環式芳香環に置き換えることにより、ポリシロキサンに適度な「硬さ」を付与し、医療用として適度な柔軟性を有するポリシロキサン誘導体の合成を行うこと、および側鎖部位に親水性のアルコール性水酸基を導入することにより表面改質を行い、同種・異種高分子材料との接着性改善を図った。得られたポリマーを架橋することによりハンドリングが容易で接着性にも富んだ新しいシリコーンゴムの開発が可能となるため、新しいシリコーンゴム創製原料として用いることができる。

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp